

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2779101241		
法人名	医療法人 田中クリニック		
事業所名	リ・リブホーム		
所在地	大阪市淀川区西中島六丁目11番31号 レーベネックス4F 5F		
自己評価作成日	平成 23年 5月 30日	評価結果市町村受理日	平成 23年 8月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性の尊重、ゆっくりとした環境の中での対応を心がけている。又勤務年数の永いスタッフが多く、入居者と馴染みの関係になり信頼性も築いている。同じ法人内での医療の連携もあり、介護スタッフも安心してケア出来る体制にある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101241&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101241&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 6月 30日		

医療法人が運営し、24時間医療連携体制を取っているグループホームです。当ホームは駅に近く、コンビニやホテル、公園もすぐ近くにあり、屋上菜園を始め建物全体の緑化に努めているのが特徴です。ホームは同法人が管理する建物の4・5階部分に位置し、6階には本年4月から新たにもう一つのユニットを開設しています。利用者は落ち着いて過ごされており、職員は利用者の希望に添った支援をしています。玄関には鍵を掛けず自由な雰囲気、隣人、知人、友人、大学の後輩、保佐人など多くの訪問者があります。水族館、博物館など希望の場所への外出や美味しいものを食べに外食をしています。また、近隣への散歩、買物、高齢者対象のデイケアに参加し、近隣の小学校へ運動会の応援など、地域へ出かける機会も多くあります。職員の定着率が高く、利用者と職員が温かな絆で結ばれているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員間での話し合いの中で作り上げた運営理念は大きな三本柱からなり、フロア内に掲げている。又、ミーティング等の折には、確認周知し、実践出来る様にしている。	運営理念は「個性・信頼・傾聴」を三本柱として、「入居者さんの尊厳を大切にし、笑顔で楽しくすごせるよう必要な援助を行う」として、利用者が地域の中で自分らしく生活できるように支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や夏祭りなど、季節の行事には参加し、近隣との交流の場を持っている。行事を行うときには、民生委員や近隣の子供たちにも気軽に声をかけ、参加してもらっている。	民生委員の声かけで地域の小学校との交流が始まり、運動会や小学校で行われる地域の夏祭りにも参加しています。ホーム主催の行事には近隣の人にも呼びかけて参加してもらっています。ホームが設置されているビルの1階にはレストランを設置し、地域との交流の場になっています。ボランティアの協力を得てフラワーアレンジを楽しみ、外出支援にも取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	高齢者支援室を通じて、福祉事務所と相談して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様を交えての座談会や、年間行事の様子をDVD編集したもの等で分かり易く報告し、そこでの意見をサービス向上に生かせる様にしている。	運営推進会議は、年6回開催しています。当初は各委員の参加状況が充実していましたが、最近では委員の交代等もあり、欠席が見受けられます。事前の日程調整には努力をしていますが、職員と家族委員の参加だけで開催している場合もあります。	今後は市職員または、地域包括支援センター職員が定期的に会議へ出席できるよう、積極的な声かけ等が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の研修所として、事業所を活用してもらい、クリニック院長による認知症等の講演もしている。	同法人と市が連携し、市職員等の研修の場としても事業所を提供しており、代表者が研修講師も務めるなど地域に貢献しています。管理者は運営について相談したり、情報交換をしたり、相互の協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように、危険予測や分析・対処方法等を話あっている。もし、身体拘束をせざるを得ない場合は、入居者及び家族への説明『切迫性・非代替性・一時性』の3つの要件に主治医の所見を合わせて検討し記録に残していく。	重要事項説明書に「身体拘束廃止に向けての取り組み」を明記し、やむを得ず身体拘束を行う場合の取り決めをしています。しかし、これまでに身体拘束を一切行っておらず、玄関やエレベーターの施錠も行っていない状況です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やホーム長、主任等が利用者の状態に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士の先生と入居者の相談をし、制度を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者の説明を入居前と入居時に説明し、理解して頂いている。解約時にも同様に理解して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やその家族に対して、苦情対応の担当窓口、ホーム内での対応方法を伝えている。又リビングには「ご意見箱」を設置している。 面会時に何でも言ってもらえる雰囲気作りをし、意見や要望は記録に残し、介護計画等に反映させている。	運営推進会議には必ず家族が出席し、意見や要望があれば発言しています。家族来訪時には職員から声かけをして、家族の意見や要望を聞くようになっています。また、意見箱を設置し、家族や利用者から意見を出しやすくしています。出された意見は、ホーム運営や介護計画書に反映しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう職員との面談やミーティングで提案の機会を設けている。	職員の気付きノート、現場の声を書き込んだ「リ・リブの声」、フロアミーティングなどで日頃から職員の声が共有され、ホーム運営に活かされています。また、定期的に管理者と職員の面談の場を設けており、一人ひとりの個別の提案や要望なども確認し反映しています。	ホームではさらに職員の研修を充実する準備をしています。外部研修への参加拡大、内部研修の充実、新入職員研修の早期実施とマニュアル作成等、取り組む予定をしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望には出来る限り対応し、職員数も多く配置している。 給料水準も年毎に検討を重ね、職員がそれぞれ役割を持つことで、向上心が持てるようにしている。 又定期的に勉強会を開いたり、カンファレス等にも積極的に参加できる環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クリニックの研修には、常勤・非常勤ともに参加して研修を共有できるようにしている。又、外部研修にも出来るだけ参加できるような機会を設ける努力をしているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やグループホーム職員勉強会で事例検討会を行い、必要時にはクリニックの院長からアドバイスを受けている。又、相互訪問等で、交流の機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの見学時や、自宅を訪問した際に、本人から話をよく聴いて、希望や要望を出来る限り、受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの見学時にご本人や家族の話をよく聴き、その後も電話などで相談に応じる等している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により、アドバイスを行ったり、必要に応じて他のサービスの利用につながる援助をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人の生活歴を知り、趣味や特技等を一緒に楽しんだり、生活を一緒に築いていけるような援助をに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での行事等は、ご家族に事前に連絡案内し、参加協力を得ている。又来所持には、本人の日々の様子を伝え共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が以前住んでいた住居近隣の買い物、食事等の援助を行ったり、ご友人との外出や訪問など、以前と変わらない関係が続くよう努めている。	ホーム面会簿には以前住んでいた地域の隣人、知人、友人、大学の後輩、保佐人などが記載され、家族以外の馴染みの訪問者が多い状況です。利用者からは昔馴染みの友人等へ暑中見舞いや年賀状、手紙などを発送できるように支援しています。利用者が以前居住していた地域を訪問し、買物や食事を楽しんだりすることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな入居者や、入居者同士の行き違いによる、いざこざが起きないように、スタッフが状況を把握し、良い関係が持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携先への入院などの場合は管理者やスタッフが、月に最低1~2回は様子を見に行き、本人や家族の相談にのるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族に希望を聞き、入居後も本人との会話や関わりの中で、希望や意向を汲み取るよう努め、得られた情報はカンファレンスや、申し送りで共有するようにしている。	職員は本人の意向に添った支援を心がけています。希望や意向の把握が困難な場合でも、利用者とのかかわりの中で意向を汲み取るようにしています。また、家族を通じて希望を確認したりして、利用者本位の支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、担当ケアマネから情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に本人や家族、担当ケアマネから情報を聞き、把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりの中から本人や家族、関係者から生活に対する意見や希望を聞き、反映させるようにしている。日々の記録と職員の意見を参考にアセスメントを行い、介護計画を作成している。</p>	<p>職員の気付きノートやカンファレンス等で利用者の状況を細やかに把握し、家族の意向を反映して、具体的で分かりやすい介護計画書を作成しています。介護計画書は家族の了承を得て、職員間で共有し実践しています。3か月～6か月毎に見直しを行い、短期目標の設定や変更などを行っています。カンファレンス記録、モニタリング記録、アセスメント表等を残し、日々のケアに活用しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日勤帯では、個々の職員からの情報をリーダーが取りまとめて記録・夜勤帯は夜勤職員が記録している。日々の記録は職員全員が読み、確認のサインを行い情報の共有をしている。介護計画の見直し時には、その記録を生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を生かして、体調の変化がある時は24時間いつでも医師に連絡し、指示を受ける事が出来る。また本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応している。H21年3月よりショートステイの受け入れを開始している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人からの意向がなく行っていないが、グループホームでの行事のときなどにボランティアへの協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と連携をとり、家族と協力して通院介助を行い、訪問診療に来てもらうケースもある。	歯科、整形外科、皮膚科、眼科など入居前からかかりつけの医療機関に、継続して受診している利用者がおられます。内科、精神科は利用者の状況や希望により、訪問診療が受けられるようにしています。24時間の医療連携体制を取っており、利用者は必要に応じ適切な医療を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や相談をすることが出来る。又、クリニックの看護職員と気軽に相談しながら、受診や看護のアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には、こまめに状態を見に行き、病院関係者との情報交換や相談をするように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応指針を定めて、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、日常の健康管理や急変時に対応できるように話し合っている。	終末期の指針を定め、利用者・家族の希望に添って支援できるように、24時間医療連携体制を整備しています。入居時に家族や本人に説明をして希望を確認していますが、急変時には再度確認をしています。最終的には入院等の対応をする場合が多く、ホーム内で看取り支援をすることはほとんどない状況です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を実施し、AED及び応急セットを備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、入居者と共に避難訓練を行っている。 地域住民への協力の働きかけは、民生委員を通して行っている。 又、地域推進運営会議などを通して働きかけている状態だが、マニュアルは作成されていないのが現状。	毎年1回、消防署立ち会いのもとに避難訓練をしています。訓練の状況は写真や記録で残して共有しています。ホーム独自の避難訓練は行っていません。地域の公園が避難場所になっていますが、地域との協力体制は現在取り組み中です。災害時の備蓄として、水と非常食を用意しています。	今後は更に年にもう1回、ホーム独自の避難訓練を行うことが期待されます。備蓄については、水の必要量を再度確認し、増量するよう検討してはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩として尊敬し、不適切な対応や言葉かけにならないよう、定期的な全体ミーティングを実施し、職員間で意識確認している。	職員は利用者一人ひとりを尊重した対応をしています。ミーティングや気付きノートでお互いに注意し合い、適切な対応をするよう努めています。利用者の個人情報保護については、職員採用時に契約書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を口に出せない入居者にも、希望が話せる環境の中で話を聴き、出来るだけ入居者の意向に沿った支援が自身で選択できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を見ながらDCやレクリエーションの参加を促しているが、入居者自身に選択してもらっている。DC以外の時間や日曜日は入居者が自由に過ごせるような環境をつくり、できるだけ希望に応じるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に応じ、理・美容院は本人の望む所へ行けるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食事がある為、盛り付けや片付けなどを職員と行っている。味噌汁つくりやおやつレクなど、利用者と一緒にできることを考え行っている。	ご飯とみそ汁はホームで作っていますが、副食は同建物1階のレストランで作られています。職員は利用者とともに配膳したり、片づけをしたりしています。月に数回、おやつ作りを楽しんだり、屋上の菜園で利用者と育てた野菜を調理して味わったりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事依頼をしている所で、栄養計算をしてもらっている。水分補給は、毎食後・おやつ時・体操後・入浴後と決められた提供分と随時テーブルにお茶を用意し自由に飲用出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、見守り・促し・一部介助・全介助と入居者の状態に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリ着用時にも、できるだけトイレ誘導を行い、排泄の失敗がないように援助していると共に、1人1人の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを確認し、時間を見てトイレ誘導をしています。排泄の失敗が無い場合にも、清潔が保たれるようにリハビリパンツの交換を勧めるなどの支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝には体操し体調に合わせて散歩にも行っている。水分補給も定期的にスタッフ側から提供するもの等組み合わせ調整している。運動だけでは難しい方もおられる為、朝食時には牛乳、又週に一度はヨーグルトの提供行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日・時間の設定をしているが、入居者の体調や希望に合わせて、適宜対応している。	利用者一人ひとりが週3回、入浴ができるように支援しています。入浴時間はその日の状況や希望に合わせて設定しています。入浴を好まれない場合には無理に勧めず、時間を見て声かけをするなどの工夫をしています。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを用意して楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	全室個室であり施設もできる為、 状態に応じた休息・安眠は確保 できている。その際の体調確認・ 安否確認は時間を見ながら行っ ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	診察時に処方された薬は個人ボ ックスにセット後、別スタッフに よる再確認をする。与薬時もセ ットから服薬まで2人体制で支 援している。又個人処方薬ファ イルを作成しスタッフ一人一人 が把握できる体制を取り組ん でいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	平日はDCに参加と、楽しみなが ら脳と体の機能プログラムに参 加している。DC以外の時間や日 曜日は希望に応じ散歩・買い 物・喫茶に外出したり、食事作 りにも職員と一緒にできる様 に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している	一人一人の希望を日々の生活 や会話の中で把握し、出来る限 り応じる様に努め、外出の機 会を持てるように支援してい る。	コンビニへの買物、ホーム周 辺の散歩、近くの公園に行く など、日常的な外出支援に努 めています。普段はいけな い場所には年間行事として、 水族館など希望の場所へ全 員揃って出かけています。ま た、同法人運営のデイケアへ 毎日のように出かけ、地域 からの参加者と話すなどの 機会があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な入居者に対しては、職員で注意し見守りしている。所持に不安を持つ方や、自己管理が難しい方は、事務所金庫にて保管・管理し希望時には、いつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	居室に固定電話を置いて頂く事ができる。また歩いて2分の所に公衆電話や、郵便局に希望時付き添うし支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には、くつろげるソファを置き、新聞や雑誌を常置し、花を飾ったりしている。玄関ガラス扉には入居者と作成した季節の飾りつけを毎月工夫しておこなっている。	エレベーターを降りたところに玄関前の踊り場があり、植栽をして椅子を置くなど、喫煙者もくつろげる場所にしています。ガラス張りの玄関を入ると食堂兼居間があり、ソファを置いてゆっくりできるようにしています。トイレは引き戸で使いやすく工夫され、浴室はコンパクトで温まりやすくなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルと、くつろぎ用のソファが2つ同じ空間にある為、1人になるのは難しいが、思い思いに過ごしてもらうことができる。又エレベーターホールにも、共有の椅子があり、喫煙談笑の場として、有効に利用されている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や好みの家具類等持ってきて頂き、使用しようにしてもらっている。又生活スタイルに合わせ、テレビや電話も自由に使ってもらえるようになっている。	居室は居間を囲むように設定されており、新幹線が通過するのが遠くに見える景観の良い部屋もあります。室内は整頓され、清潔感があります。利用者はテレビや仏壇、使い慣れたタンスなどを置いて、落ち着いた自分らしい居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで、廊下・浴室・トイレの要所、一部の居室に手すりを設置している。リビング床は滑りにくく、居室床には転倒しても怪我をしにくい材質を使用している。		